

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4676100235
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム 隼人
訪問調査日	平成 22 年 2 月 18 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4676100235
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム 隼人
所在地	鹿児島県霧島市隼人町松永3630番地3 (電話) 0995-64-2520

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成22年2月18日
評価確定日	平成22年3月31日

## 【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日
ユニット数	3 ユニット
職員数	29 人
利用定員数計	27 人
常勤	5 人
非常勤	24 人
常勤換算	27.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て及び木造2階建て造り 平屋建て及び2階建て0 1階 ~ 2階部分
------	---

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	7,500円(水道光熱費)	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		850 円		

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	8 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	隼人温泉病院 ・ 吉満内科クリニック ・ なかしま歯科クリニック
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは隼人町の東北部の温泉団地の小高い位置にあり、裏山の杉林や一面に広がる住宅周辺が見渡せる眺めの良いところである。ホームは広々とした浴槽に温泉が常時あふれている。職員は一人ずつゆっくりと入浴を楽しめるように支援し、本人と会話しながら希望や思いを把握し本人本位な支援に繋がる様にしている。法人の職員行動指針が徹底しており職員が明るく優しく学習意欲がある。看護師を職員として配置し医療連携体制が整備され体調不良の早期発見や早期対応など健康管理が充実している。職員は一人ひとりの利用者が地域の中で幸せに過ごせ日々の生活で笑顔が出るようにと努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は無し。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者が各ユニットに白紙の自己評価票を配り、3人の責任者がそれぞれの方法で全職員と取り組みを行い作成している。各ユニットでの資料を責任者会議に持ち寄り、取り組み状況を話し合いながら管理者がまとめている。各ユニットの今後に向けて取り組みたい課題については各ユニットで対応していくようにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回定期的に開催され、ホームの状況・利用者の様子・行事活動など報告し、メンバーで質疑応答をしている。地域のメンバーからのアドバイスで地域の老人会との交流や行事の余興ボランティアの受け入れができるようになるなど地域との交流に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族へは毎月、個別のたよりと写真で様子の報告をし家族の安心に繋げている。家族の意見や要望は面会時に聞く姿勢で対応している。その他年2回の家族会開催、運営推進会議、意見箱の設置など聞く機会が設けている。出された要望や意見は各ユニットで話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは住宅地にあり近隣の人と出会った時には気軽に挨拶や会話をしている。ホームの庭で夏はバーベキュー大会、冬は餅つき大会の催しを行い老人会、子供会、地域住民が参加している。保育園の運動会や法人開催の夏祭りへ参加し、中学生の職場体験やボランティア協議会からボランティアの受け入れを行うなど地域との交流に努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の方がホームでの生活や家族とのふれあい、地域とのふれあいの中で、笑顔で過ごすことが出来るように利用者の支えになることを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示したり職員会議やユニット会議において理念の取り組みについて話し合い共有を図っている。職員は日々一人ひとりの利用者が笑顔で過ごせるように努力をしいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人と出会った時は気軽に挨拶や会話をしている。ホームの庭で夏はバーベキュー大会冬は餅つき大会を行い、老人会・子供会・地域住民が参加している。保育園の運動会や法人開催の夏祭りへ参加し、中学生の職場体験やボランティア協議会からのボランティア受け入れなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価を実施する意義についてよく理解しており、管理者が各ユニットに白紙の自己評価票を渡し、責任者が中心となりそれぞれの方法で全員参加して取り組み作成している。責任者会議に持ち寄り取り組み状況を話し合いながら管理者がまとめている。各ユニットの課題については各棟で対応していくようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されホームの状況・利用者の様子・行事活動など報告しメンバーで質疑応答をしている。地域のメンバーからのアドバイスで地域の老人会との交流や行事の余興ボランティアの受け入れができるようになるなど地域との交流に活かしている。	○	過去1年間の会議に家族の出席がない。メンバー構成として必要とされている家族の出席ができるような仕組みや働きかけの支援を望みます。

鹿児島県 グループホーム隼人

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議開催で市町村担当者とは相談や報告など話し易い関係にある。今回スプリンクラー設置の件で相談している。霧島市主催の健康福祉祭りには市と協働で準備開催をし、利用者と共に参加している。包括主催の研修会にも参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には毎月個別に便りと写真で暮らしの様子を報告している。面会時には日常の様子を話したり介護記録を見せている。金銭については2～3ヶ月毎出納帳のコピーを送り、面会時に出金伝票に確認印を貰っている。年に2回法人発行の便りにホームの活動状況を掲載し家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員は家族の要望や意見は面会時に聞く姿勢で対応している。年2回の家族会や運営推進会議、意見箱の設置、苦情相談窓口の設置など聞く機会を設けている。出された要望や意見はユニットで話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の職員異動やユニット間の異動は最小限に抑えるようにしており、過去1年間に法人内の異動は行っていない。待遇改善や職員の研修支援、個別の面談など働きやすい環境を整えて離職を抑える努力をしている。離職時の引継は混乱が起こらないよう入念な対応を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には順番に参加の機会があり、研修参加者はホーム内研修で伝達研修を行い全職員に共有を図っている。毎月の法人研修会に参加している。資格取得に取り組む職員が多く研究機会を利用したり、先輩職員の指導を受けるなど勉強している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会の研修会や事例検討会に参加している。22年4月より始良・伊佐地区グループホーム協議会で職員交流計画が出来ている。系列のグループホームとの交流活動も行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず本人・家族に見学をしてもらい本人が納得した状態で利用ができるように支援している。入居後は不安にならないよう見守りに努めたり、面会時間を制限しないで家族の協力を貰うなど馴染めるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から得意な梅干しの漬け方や灰汁巻き、煮しめの作り方、そば打ち、餅つき、ことわざなどを教えてもらいながら一緒に過ごし、尊敬したり感謝したり支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に暮らし方の希望や意向を把握している。入居後は日頃の暮らしの中で本人の言葉や態度で意向の把握をし、気づいた事は大切に日々の申し送りノートや口答で伝達し職員は共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を聞き、普段の暮らしぶりから職員が把握したことを含め、計画作成担当者が中心となり関係者と話し合いながら利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援経過や毎月のモニタリングを基に介護計画書の期間に応じた定期的な見直しを行っている。期間前であっても状態に変化が生じた場合は本人・家族・必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師職員を配置し24時間の医療連携体制を活かし、医療処置を受けながらの生活維持や健康管理が行われている。通院、外泊、墓参りなど本人の意向にそえるように柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医による医療を受けられるように支援している。3名のかかりつけ医がそれぞれ往診している。その他専門医への通院についても職員が通院介助を行い適切な支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての看取りに関する指針を定め家族の同意をもらっている。今までに未だ看取りの経験は無いが重度化した時に職員が対応出来るように研修している。家族、医師と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には個人情報について守秘義務を図っている。管理者は職員にプライバシーを損ねる言葉づかいや排他時、入浴時の対応について気がついた都度指導をしている。職員同士も注意しあいながら対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らし方は本人のペースを大切に支援している。その人らしい暮らしが出来るように、趣味の習字、俳句、絵などの支援や適量の晩酌支援など希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から献立の希望を聞き、調理師の職員が季節感を大切に献立を作成して彩り、味付け、盛り付けの工夫を凝らしている。利用者は台拭きなど職員と準備を一緒に食事をしている。お寿司やうな重の出前をとったり楽しく食事ができる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームは温泉団地の温泉を利用し、大きな浴槽に一人ずつゆっくりと入浴を楽しむことができる。利用者の身体機能の低下の人もゆっくり入浴できるように、れんげ棟の浴槽には機械が設置され安全で楽に入浴できる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性の利用者はおやつ作り、テーブル拭き、洗濯ものをたたむなど家事を手伝う事で張り合いや喜びとなっている。ドライブや買い物、外食、行事参加、野菜作りなど楽しみや気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天気、体調に合わせて庭の散歩や近くのホームの畑行き、近隣の散歩、ユニット訪問、馴染みの場所への外出など支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解して、居室や日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は出かける傾向のある人を把握し、見守りの対応をしている。近隣住民にも協力をお願いし安全確保に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を経て通報訓練、避難訓練、消火訓練を行っている。避難訓練については昼間(夜間想定)の訓練だけなので2階の職員は避難経路について不安がある。3月末にスプリンクラーの工事が完了する予定になっている。	○	2階の利用者の身体状況や、急な階段など夜間帯の誘導が心配である。専門家や職員と話し合い安全な誘導策や夜間帯の訓練など検討されることを望みます。

鹿児島県 グループホーム隼人

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量については毎日記録し、職員は状況を共有しながら必要量が確保できるように支援している。法人の栄養士の献立を参考にしながら、職員は利用者の好み、栄養バランス、食事形態など一人ひとりに合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはカウンターで仕切られた事務所や一段高い畳の間、カウンター越しに見える台所など人の動きが分かりやすい造りである。ホールには菜の花や季節の花が生けられ、壁には節分の鬼やおたふくの面、お雛様の塗り絵など飾り季節感が取り入れてあり過ごしやすいう雰囲気である。浴室は神経痛、肩こり、アトピーなど効能ある温泉浴にしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けのベットタンスがあり、利用者は愛用の鏡台や机、大切な仏壇、家族の写真、など持ち込み、壁に家族の写真を飾ったり、仏壇に手を合わせたり今までの生活スタイルを維持しながら安心して過ごしている。		